

新後拾遺和歌集

卷第七

雑春歌

題しらず

法印宗信

秋ちかきをののしのはら置く露の

あまりてよそにとぶ蛍かな

題しらず

道元法師

山のはのほのめくよひの月かげに

光もうすくとぶほたるかな

題しらず

読み人しらず

里の名の月のかつらにとぶ蛍

くるるかたにやひかりそふらむ

述懐の歌の中に

権大納言時光

代代へぬる跡をばのこせ我が身こそ

あつめぬ窓の蛍なりとも

卷題十一
恋歌一

題しらず

為道朝臣

蛍よりもゆといひてもたのまれず

光にみゆる思ひならねば

「国歌大観」より